

資本主義は終わりだ！大失業と戦争打ち破る第2次国鉄決戦へ 外注化・非正規化絶対反対！青年労働者先頭に闘おう



資本主義を打ち倒せ！全世界でストライキが爆発 (左)3・1～2動労千葉第2波スト (中)2・15ベルギー列車事故弾劾スト (右)2・24ギリシャ3百万ゼネスト

大恐慌はさらに激化。労働者に犠牲を転嫁するな！

世界大恐慌は、果てしなく進行しています。天文学的な財政投入と超金融緩和政策も「息継ぎ」とはなりえず、無慈悲な大量解雇と賃下げ、「新興国」市場をめぐるバル投機とドバイ、ギリシャと続く国家債務不履行の連鎖。ドル大暴落の切迫。トヨタ車狙い撃ちの露骨な争闘戦と保護主義の台頭。

際限ない資本救済政策によって、日本の財政赤字は3月末には900兆円を突破。税収37兆円に対し歳出は92兆円。国債発行44兆円。何が「財政再建」などあり得ないことは、常識で考えたつて分かりきったこと。すべてを労働者に犠牲転嫁するなんて、断じて許されない。「財政危機」なんて資本主義的生産様式を終わりにし金融資本の全資産を接收したら一瞬にして解決。そういう問題です。

安全投げ捨てる効率化＝外注化で殺されてたまるか

今、JRがやろうとしているのは、利潤の極限的追求のために第2の分割・民営化で、数百の会社に鉄道業務を分割・外注化する攻撃です。それが何をもたらすか。安全の最後的崩壊です。半年間止まつたままのベルリン地下鉄、事故の頻発で保線会社が倒産したイギリス、先日のベルギー

の大事故、そして05年尼崎事故、羽越線事故。民営化・外注化でおびただしい数の乗員・乗客、保線労働者が犠牲となっているのです。そして、効率化・コスト削減が現に人を殺し、職場の仲間を病気や退職に追いやっている現実に、私たちも日々直面しています。何のために、誰のための「効率化・コスト削減」なのでしょうか。

敵は恐れている。労組破壊はねのけ職場から総反乱を

分割・民営化の決着かけ、
動労千葉が渾身のスト決起

大恐慌は、労働者の反乱を恐れる当局・資本の労組破壊攻撃を激化させ、御用組合幹部による労働組合の「産業報国」運動への転換を急速に進めます。社保労働者の首切りに協力した自治労本部をは

腐った労組指導部を打倒し、全労働者の怒りを解き放つ闘いです。大失業と超低賃金、外注化・非正規化の強制に対し、2千万の青年労働者の未来をかけた決起が始まっています。3・20渋谷へ、団結をかけ、ともに総結集しよう！



『ルポ 貧困大国アメリカII』（堀未果著 岩波新書）
腐りきった資本主義を倒す労働者の怒りと闘い

「経済危機後のアメリカでは、社会の貧困化が加速している。職がみつからず、学費ローンに追いやられてられる若者たち。老後の生活設計が崩れた高齢者たち。教育や年金、医療そして刑務所所までもが商品化され、巨大マーケットにのみ込まれている。オバマ登場での状況は変わったのか…」

現在のアメリカ社会はどこまで行き着いたか、何が決定的な転換点となつたかであり、この資本主義の現状に対して突破の道はどこにあるのかです。

「外注革命」のもたらした
惨たんたる現実

第一章「公教育が借金地獄に変わる」で、教育の民営化、ビジネス化によって学費ローンが学生たちを食いつぶす、「自己破産」すら認められず借金漬けにされて死ぬまで（死んでも）借金返済に追い込まれる姿が報告されます。第2章「崩壊する社会保障が高齢者と若者を襲う」では、企業年金制度の破たんを例に、食つていけない、医者にもかかれない高齢者の絶望的状況が暴かれています。第4章「刑務

所という名の巨大労働市場」こそ、「外注革命」をなしたアメリカの行き着いた姿。民営化された刑務所では、時給40セントの強制労働の一方で、部屋代（…）や食費、備品代で毎日10ドルが取られ借金づけとされて収奪されしていく。「いまもつともトレンディな投資先一順調に増加する有罪判決と逮捕率が確実な利益をもたらしてくれます。急成長するこのマーケットに投資を！」これが、大手投資会社のキャッシュコピーとなり、家を奪われたホームレスの人々が次々に投獄され監獄労働を強制されていく状況が報告されます。

外注化阻止！労働者の革命を

本文冒頭が「爆発した教師と学生たち」としてカリフォルニアの学生と教職員のストライキ闘争から始まるのは、決定的。闘いにこそ希望があるということです。外注化は資本主義の終末点。労働者階級の革命が未来を開くのです。

全面外注化阻止・JR体制打倒のストライキに打って出ました。2・1～2の48時間ストでは2名の組織拡大を勝ち取り、さらに強制配

3・20渋谷に総結集しよう！
青年は未来をかけて団結！

じめ、民主党・連合政権の下でそれがいつきに進行しているのです。